

# Leaders TOPICS



## 「炭鉱のカナリア」次世代への役割

SDGs エキスパート 生物部会+エネルギー部会 藤波祐子

2025年元旦の葉山町は富士山も輝く穏やかなお天気で始まったが、今週は珍しく暴風が3日間ほど続き、早朝、浜に行くと暴風で白波が大きく砕けていた。

### ■極端気象現象の甚大化

折しも、対岸の米国ロサンゼルスでも、暴風が吹き荒れ、大規模な山火事が発生し一夜にして、著名人も住むマリブなどの美しい街並みが廃墟と化した。住人が「なぜこんなことになってしまったのか…」と茫然としていた。

様々な要因が重なったが、最大の原因は地球温暖化である。カリフォルニア州は2006年に「地球温暖化対策法」を制定した。これまでも山火事は夏から秋に多かったが、温暖化による偏西風の蛇行で乾燥期が長期化し、樹木や下草が燃えやすい状態になっていた。逆に昨年2月は洪水となる大雨。この極端気象現象はイベント・アトリビューションという科学的手法でも気候変動によると説明され、今後も極端気象現象は年々甚大化していく。

### ■炭鉱のカナリア(注1)

こうした時代が来ることはずっと前から予見されていた。1988年にはIPCC(気候変動に関する政府間パネル)が設立され、世界195か国が加盟し、葉山の地球環境戦略研究機関(IGES)の研究者など、数千人の専門家による科学的知見が集約され報告書が発行されている。

1992年の地球サミットでは当時12歳だったセヴァン・スズキさんが子どもの立場から現代のグレタさんのようなスピーチをし、1997年には京都議定書が採択され



Fearless Girl facing NYSE(注2)

出典：<https://www.thewallstreetexperience.com/blog/everything-to-know-about-the-fearless-girl-statue/>

(注1)「炭鉱のカナリア」とは、炭鉱の鉱夫たちが地下に降りる際にメタンガスの危険を感知するため、人間よりも有毒ガスに敏感なカナリアを鳥かごに入れて連れて行った。まだ起きていない危険や、目では感知できない危険を知らせる人や状況を意味する慣用語。

(注2)恐れを知らぬ少女(Fearless Girl)は、アメリカ合衆国ニューヨーク市マンハッタンのウォール街にあるニューヨーク証券取引所ビルの向かいに設置されている少女の銅像である。

るなど、20世紀の時代から「炭鉱のカナリア」は警鐘を鳴らしていた。ようやく2015年にはパリ協定で1.5℃という世界共通の努力目標が設定された。

### ■サステナビリティ

また、同じ2015年にはSDGsが採択された。「サステナビリティ」とは1987年のブルントラント委員会で「将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現代世代のニーズを満たす開発」と定義され、当時から世代間の公平性や、地球環境の限界は意識されていた。

SDGsは、一つしかない地球の有限の自然環境・資源の中で100億人に迫る人類が生き残るための戦略である。それを認識し社会の仕組みを変えるための宣言である。「今だけ、ここだけ、自分だけ」の幸せのために有限の地球資源や環境を使い果さず、未来世代や地球の反対側に住む人達の幸せも配慮し、社会や経済を回す構造仕組みに変えないと持続可能ではないからだ。

自然という基盤の上に社会、経済が成り立っているのを認識し、生き方や仕組みを変えていく必要がある。技術革新や企業活動で地球の課題を解決し、ネットポジティブな企業活動、暮らし方に変えていく必要がある。

### ■次世代への役割

SDGs達成期限まであと5年。今月誕生する米新政権はパリ協定離脱予定で向かい風が吹く。ヨットは真向いの風に逆らって進むことはできないが、35~45°の角度で風の力を活かして進む。飛行機も向かい風を利用して離陸する。そうした先人からの生きる智慧を次世代に伝えるのが我々世代の役割なのだろう。



SDGs ウェディングケーキ

出典：<https://sdgs.media/blog/3834/>